

「オープン建築における学習環境を活かした個性化教育の実践～小学校2年算数（図形）におけるコース選択型
単元内自由進度学習の試み～」…泉聖子（板橋区立大谷口小学校）
「一人一人の子どもが生き生きと学ぶ姿が見える授業づくり 個に応じた学習…『ITCHー学習』～小学校2年
算数（かけ算）の授業実践を通して～」…海野初枝（板橋区立板橋第一小学校）
「イングランドにおけるパーソナライズド・ラーニング～その構造と実験校での実践～」…コーシア郁実（ダラ
ム大学）
「単元を通して、一人一人が自分の伸びを実感するための試み～4年生走り高跳びの授業づくりとその実践を通
して～」…角田麗圭（仙台市立広瀬小学校）
「余暇活動に発展する双方向性のある地域商店との交流活動～生活単元学習における地域商店での一学習を通し
て～」…渡邊幸恵（仙台市立東六番丁小学校）
◆Ⅱ. 8月19日（日）10:00-12:30…227教室 コーディネータ：伏木久始（信州大学）
「自分の考えや思いをしっかりとち分かりやすく伝え合うことができる子ども～4年国語科の授業を中心とした
一試み～」…青沼佳（仙台市立茂庭台小学校）
『今伝えたい思い』を具現化する学習指導の実践～岩手県大船渡市在住T氏へ宛てた手紙づくりを通して～」…
石田周一（佐伯市立鶴谷中学校）
「ICT機器の利活用が言語活動に与える影響について～小学校算数科での実践を手がかりにして～」…浦郷淳
（白石町立有明南小学校）
「感性を働かせながらつくりだす喜びを味わう図画工作学習の一試み～見通しと振り返りのねらいを明確にした
図工ノートの活用を通して～」…山田貴史（仙台市博物館）
「クラブ活動において自己選択・自己決定によって児童の自主性を高めるための試み～所属クラブの設置と決定の
方法の工夫を通して～」…関真人（仙台市立鶴巻小学校）
◆Ⅲ. 8月19日（日）13:30-15:30 227教室 コーディネータ：浅沼茂（東京学芸大学）
「スタートカリキュラムの実践と幼小交流活動」…井上かおり（仙台市立広瀬小学校）
「個の学びを9年間のスパンでケアしていく小中一貫教育の構想～長野研の過疎地の小中一貫校での取り組みを
事例に～」…伏木久始（信州大学）
「参画型ボランティア活動を通じた地域社会の居場所づくり～特別活動における「社会的な資質の育成」を手掛か
りに～」…藤原靖浩（関西学院大学大学院）
「家庭的養護に関する一考察」…柳生のび（米原市みらいづくり隊）谷口育史（近大姫路大学）

お知らせ

来年度の第6回全国大会は、東海個性化教育学会を中心に、以下の日程で開催の準備をお進めいた
だいています。会員のみなさまには、今からご予定いただきますよう、お願い申し上げます。なお、詳細
につきましては、随時決まり次第学会HP上にアップすると共に、改めて1次案内（2013年4月頃）、
2次案内（2013年6月頃）としてご案内申し上げます。

開催地：愛知県名古屋市 施設については現在交渉中

開催日：8月3日（土）・4日（日）

なお、併せて開催の免許更新講習（選択講習）は、8月2日（金）～4日（日）の3日間です。

〈事務局への問い合わせ・連絡先〉 庶務部長 佐久間 茂和 〒338-0013 埼玉県さいたま市中央区鈴谷 3-9-14-510 TEL 048(678)1681 e-mail sakuma.s@s7.dion.ne.jp 日本個性化教育学会ホームページ http://koseika.com/	日本個性化教育学会 第15号 平成24年 10月20日発行 編集責任者 事務局長 奈須 正裕 編集 広報部 中田 泰志
---	--

日本個性化教育学会

発行

平成24年10月20日

発行責任者

加藤 幸次

日本個性化教育学会報

第15号

昨年3月、大震災により未曾有の被害に見舞われた東北の地で、本年度の全国大会を開催いたしました。
復興に向けて、一步一步歩んでいる東北の先生方と、今一度原点に立ち返り、一人ひとりを丁寧に
見取り、個に応じた指導を進めていくための大会となりました。

日本個性化教育学会 第5回全国大会（東北大会）

■テーマ 「個が生きる授業づくりの探究」 ～磨き合おう！子どもを見取る確かな目を～

■期日 2012年8月18日（土）・19日（日）

■会場 宮城教育大学 萩朋会館（しゅうほうかいかん） 2階 大集会室等

■日程

8月18日（土）

9:50 開会行事

10:00～10:50 基調講演 「個性化教育が目指してきたこと」 成田幸夫（岐阜聖徳学園大）

10:50～12:30 シンポジウム 「個が生きる授業づくり」 司会 吉村敏之（宮城教育大）

シンポジスト 光武充雄（九州個性化教育学会長） 澤田稔（上智大） 奈須正裕（上智大）

13:30～16:30 分科会

16:40～17:10 会務総会

■課題研究 A

「学習環境をデザインする」

コーディネータ：

加藤幸次（学会長）

佐野亮子（東京学芸大）

竹内淑子（半田市立宮池小）

※実践報告と意見交換

8月19日（日）

10:00～12:30 分科会

■課題研究 A

「学習環境をデザインする」

コーディネータ：18日と同じ

※実践ワークショップ

13:30～15:30

■課題研究 A

「学習環境をデザインする」

コーディネータ：18日と同じ

※シェアリング

15:40～16:00 閉会行事

■課題研究 B

「鑑識眼を磨く」

コーディネータ：

久野弘幸（愛知教育大）

谷口育史（近大姫路大）

香田健治（大垣市立一之瀬小）

※実践報告と意見交換

■課題研究 B

「鑑識眼を磨く」

コーディネータ：18日と同じ

※グループ・モデレーション

■課題研究 B

「鑑識眼を磨く」

コーディネータ：18日と同じ

※シェアリング

◆自由研究発表 I

コーディネータ：

高浦勝義（明星大）

※研究発表6件と協議

◆自由研究発表 II

コーディネータ：

伏木久始（信州大）

※研究発表5件と協議

◆自由研究発表 II

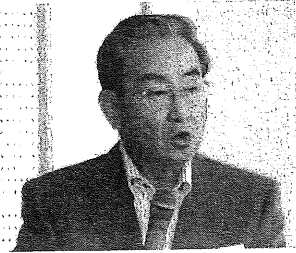
コーディネータ：

浅沼茂（東京学芸大）

※研究発表4件と協議

基調講演 「個性化教育が目指してきたこと」 岐阜聖徳学園大 成田幸夫

「最近の実践が、心ときめく感動的なものになっていないのはなぜか。」
「子どもたちのワクワクするような可能性を実感させる挑戦的な実践に巡り会わないのはなぜか。」
「総合学習が、学び方を学ばせることに傾斜しすぎて、教科の目標つぶしと変わらない単元構想になっていないか。」
「感動重視で教師も燃える活動に再びスポットを当てたい。筋金入りの『アバンギャルド』をめざしたい。」



大震災から1年5ヶ月の仙台に日本各地から集まった私たちは、のっけから成田先生の熱いカウンターパンチを受けた。「35年間の個性化教育を振り返ると、指導形態を前面に打ち出したことによって、個別化・個性化が画一的な『緒川化』の時代を続けてしまったともいえる。『応じようとする個』の持ち味を捉えることによってのみ、その持ち味を尊重した個別的な学習の流れが工夫できる」と示唆された。

特に成田先生の言葉で印象に残ったのが、学習パッケージについての一節である。有力な学習材である「学習の手引き」や一人学びの流れには、問題解決の過程が埋め込まれており、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力を育み、学びの終盤では言語活動や表現力を高めるしかけが組み込まれている。勇氣・元気・情熱を戴く先生の話に言い訳を考え、他人事として苦笑いをしているだけの我々を後目に、「大学生を洗脳して理想とする教師をつくりたい!」という成田先生は、岐阜で大学生のみならず、附属中の全面改築の設計に携わり、カラフルな教科教室型の学校で新境地を楽しまれている。(千葉 加藤)

シンポジウム 「個が生きる授業づくり」

司会 宮城教育大 吉村敏之 シンポジスト 九州個性化教育学会長 光武充雄
上智大 澤田 稔
上智大 奈須正裕



「自己の更新を。」これは、奈須先生がシンポジウムの最後に我々に出された課題である。「個性化教育は『新たな問いを考えていく』ということである。問い直すということは、とてもしんどいことだし、自己を批判して自己を乗り越えていくという自己更新は、人間にとってうれしいことだが、しんどいことである。皆さん頑張ってください」という奈須先生の言葉。

異文化としての子どもだからこそ、尊重していきたい。奈須先生が話される子どもたちのエピソードはおもしろく笑えてしまうが、他人事ではない。きっと先生は

「君はこの後どうするかね?」と我々に問うているのだろう。

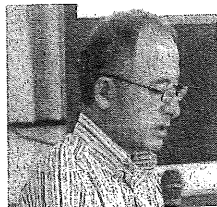
光武先生は発達障害と関わって、2点強調された。

まず、学習活動を仕立て直す(パラダイム・シフト)。子どもたちが自分から向かって行く、成立するような指導案、学習案を何本か持っている、学級経営がだいぶ変わってくる。

次に、小学校2年生頃までは、誰も「自己中心性(中心化)」であり、そこを通り抜けてきているのだから、発達障害は特別なものではない。今こそ「自己肯定感」を持たせ、「自分でやる」個に沿った学びに戻りたい。臨床心理士の立場からそう述べられた。



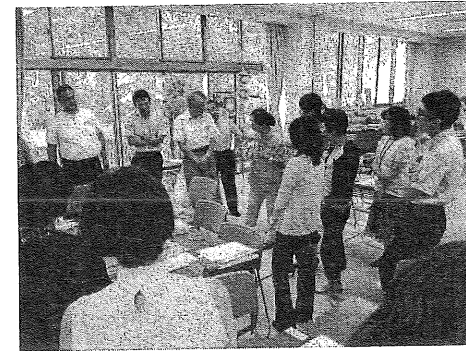
澤田先生からは、テスト結果で学校の優劣がつけられている現状のアメリカ教育政策と、個性化教育の学校の紹介をうけた。富裕層のロッジ風学校では総合学習が中心的。ヒップホップハイスクールの子どもたちにとっては契約書を書けるようにするのが正しく実学。マイヤー先生の小学校では様々な子どもたちが、半年間「エジプト」を核に総合学習に取り組んでいる。澤田先生と一緒に参観をしているような、楽しさの中で「学校とは何か」「個性化教育とポリティクス(政治性)が関わってくるとは」など改めて考えさせられた。(千葉 加藤)



分科会

課題研究A「学習環境をデザインする」

コーディネータ：加藤幸次(学会長) 佐野亮子(東京学芸大) 竹内淑子(半田市立宮池小)



教科の一人学びを実現する学習環境の考え方と手だてに内容を焦点化し、参加者の具体的な活動を通して実践をイメージ化したり方法を考えたりすることを学ぶ2日間だった。

初日は、3つの実践発表を聞かせていただいた。板橋区立大谷口小学校の福田先生と丹野先生からは、6年生の2教科(算数・社会科)同時進行による一人学びの実践、同校の泉先生は、2年生算数(図形)における単元内コース選択型一人学びの試みについて、板橋区立板橋第一小学校海野先生からは、2年生算数(かけ算)での単元内コース選択型一人学びの授業づくりについて発表があった。

3つの実践を通して、子どもたちが主体的意欲的に学ぶ様子

や、達成感を持つことによって自尊感情が向上したこと等が先生方から生き生きと語られ、この学習方法の手ごたえを感じた。

また、一人学びを成功させるものは、先生方の広くて深い教材研究による充実した「学習パッケージ」づくりであることが、3つの発表からよく理解できた。「学習パッケージ」は「学習のてびき」や「学習カード」や「掲示物」などトータルしたものをいう。

2日目は、課題別の4グループに分かれて、学習の流れを大まかにつかんだ後、これから使える「掲示物づくり」に取り組んだ。(様々な材料を用意してくださってありがとうございました。)まずは真似をしてカラースチロールを電熱線で切り取る。切り取りながら、こんなものもあんなものも、とイメージが膨らむ。(これが、今回のねらいだったんだ!)

時間があっという間に過ぎ、これからの実践に夢を膨らませて仙台を後にした。(四国 近藤)

課題研究B「鑑識眼を磨く」

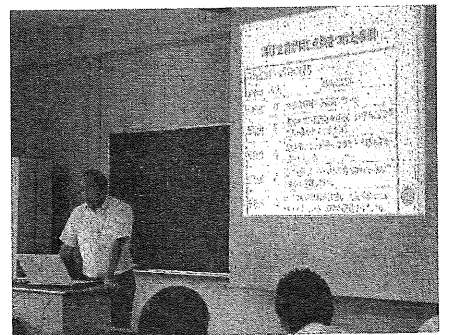
コーディネータ：吉村敏之(宮城教育大) 谷口育史(近大姫路大) 香田健治(大垣市立一之瀬小)

課題研究Bは、「鑑識眼を磨く」というテーマで行われた。

最初に、久野先生により、生活科(2年生)、算数(5年生)のビデオ映像やテープ起こしの記録をもとに、ストップモーション方式で授業場面の検討が行われた。どちらの授業も子どもの発言やつぶやきが授業を成立させる重要な要素となっているものであった。授業の中で子どもの発言をもとにして授業を作っていくためには、教師の鋭い鑑識眼が必要であり教師の力量が問われることを認識させられた。

後半は、香田先生により、総合的な学習の時間の授業で使用するループリックの開発について、ワークショップ形式で行われた。3~4人のグループに分かれ、実際の子どもの作品(レポート)を先生方が評価し、その評価をグループで突き合わせながら、構成要素を決め、ループリックを作成するという内容であった。

今回の講習は、授業が子どもにとって意味のあるものとなるためには、教師の教育的鑑識眼の質の高さが何よりも大切であること、質の高い鑑識眼を持ち、常に授業実践を問い直し、普通の授業の中にある子どもと教師の学びの姿、日々の授業の持つ価値や意味を問い続けることの大切さを改めて認識させられる内容となっていた。(関西 谷口)



自由研究発表 発表者・発表題目一覧

◆I. 8月18日(土) 13:30-16:30...227教室 コーディネータ：高浦勝義(明星大学)

「オープン建築における学習環境を活かした個性化教育の実践~小学校6年算数・社会における二教科同時進行単元内自由進度学習の試み~」...福田大介・丹野寛子(板橋区立大谷口小学校)